

想

「暖かな春」

町長 三浦正隆

暑さ寒さも彼岸までとはよく言ったもので、あれだけあった雪もあっという間に無くなってしまいました。

長い冬が終わり、待ちに待った春の到来に、気持ちも自ずと軽やかになります。日、一日と日差しも長くなり、吹く風にも暖かさが感じられます。北国の人々にとって春の息吹は特別なものです。

さて、平成26年度が始まりました。新年度予算の詳細については本誌に掲載されておりますのでそちらに譲とします。予算の中身を見て頂くとよく分かりますが、本町は“福祉でまち起こし”と言っても良いくらい今年度も福祉事業ではかなり手厚くなっています。高齢者、しょう碍者、子育て世代等それぞれを対象とした事業は種類、額とも相当数あります。それら福祉事業の底に流れている精神は春の穏やかな暖かさに似ています。弱いものに寄り添うという気持ちが根っ子にあります。ただこの「福祉」という言葉は大変身近で、また大変難しい言葉でもあります。

ところで、最近は様々な殺人や傷害などの事件、通り魔的、偶発的な事件も多発しています。人間が生きていく上で大切な他を思いやる気持ちがどんどん社会から薄れていっているような印象すら感じます。この「他を思いやるころ」というのは福祉を進めていく上でとても大切なことです。家族愛の様な気持ちだとか人間としての情愛だとか、そのような気持ちが根本にあって、そこからいろいろ派生して来るものかと思えます。

そういう意味では家族愛についてとても感動した文章があります。「海軍主計大尉小泉信吉」という本ですが、著者は経済学者で慶應義塾大学の塾長でもあった小泉信三さん、戦後は皇太子明仁親王現在の天皇陛下の教育掛も務めました。

昭和16年12月太平洋戦争が始まり、子供の時から憧れていた海軍に志願して戦場に赴く息子信吉に、小泉信三は心残りなく勤務させたいと思いつきの様な手紙を手渡します。

「君の出征に臨んで言うておく。

吾々両親は、完全に君に満足し、君をわが子とすることを何よりの誇りとしている。僕は若し生まれ替わって妻を選べといわれたら、幾度でも君のお母様を選ぶ。同様に、若しもわが子を選ぶということが出来るものなら、吾々二人は必ず君を選ぶ。人の子として両親にこう言わせるより以上の孝行はない。君はなお父母に孝養を尽くしたいと思っているかも知れないが、吾々夫婦は、今日までの24年の間に、凡そ人の親として享けうる限りの幸福は既に享けた。親に対し、妹に対し、なお仕残したことがあると思ってはならぬ。今日特にこのことを君に言うて置く。(後略)」

信吉さんは昭和17年10月南太平洋において戦死します。父親としての情愛に満ちた素晴らしい手紙だと思えます。家族の絆が薄れているといわれる昨今、多くの学ぶべき要素が含まれているように思います。今月もお体を大切に、元気で行きましょう。

山本地区ボランティア協議会からのお知らせ



本協議会では、4月から10月までの第1日曜日を「ボランティアの日」と定め、公共施設のごみ拾い、草取りなど環境美化活動を行っています。

本年度は、10月に「国民文化祭あきた」が開催されます。本町を訪れる多数の方がたを、ゴミのない美しい町で歓迎したいと思っています。

活動期間 4月から10月までの第1日曜日

活動時間 午前6:00～7:00

(集合時間 午前5:50まで)

活動月日	清掃場所	作業内容	集合場所
4月6日	ふるさと文化館 ～地域福祉センター	ごみ拾い (あじさい道路)	ふるさと文化館駐車場
5月4日	森岳駅周辺	草取り、ごみ拾い	森岳駅
6月1日	地域福祉センター ～ふるさと文化館	草取り、ごみ拾い (あじさい道路)	地域福祉センター駐車場
7月6日	森岳駅周辺	草取り、ごみ拾い	森岳駅
8月3日	惣三郎沼公園	草取り、ごみ拾い	ふるさと文化館駐車場
9月7日	角助沼公園	草取り、ごみ拾い	山本体育館駐車場
10月5日	森岳駅周辺	草取り、ごみ拾い	森岳駅